

---

# 人間ドック

## ■ 人間ドックを担当した先生

月 曜	山本寛八郎 東京都予防医学協会	野田明子 東京都予防医学協会
火 曜	野田明子 東京都予防医学協会	高梨智子 東京都予防医学協会
		三輪祐一 東京都予防医学協会
水 曜	井辻智美 東京都予防医学協会	外口弥生 東京都予防医学協会
木 曜	松田裕香里 東京都予防医学協会	石山健太郎 順天堂大学病院
金 曜	須賀万智 聖マリアンナ医科大学	高梨智子 東京都予防医学協会
土 曜	李 鐘碩 順天堂大学病院	三輪祐一 東京都予防医学協会

## ■ 予防医学相談室を担当した先生

月 曜	三輪祐一 東京都予防医学協会
火 曜	埋忠洋一 日本経団連顧問医

# 人間ドックの実施成績

三輪 祐一

東京都予防医学協会総合健診部

## はじめに

1958(昭和33)年、内科的な検査を主体にした1泊2日の入院ドックがスタートした。これは一部の裕福な人が利用したものであった。しかしその後、予防医学の考えが台頭した。保険者にとっても病気になって医療費を払うより、病気の芽を摘むほうが廉価であるという考え方が定着し、積極的に人間ドックが利用されるようになってきた。すなわち一部の富裕層の時代から、大衆の時代に変遷してきたわけである。

人間ドックのシステムも当初、1泊2日で実施していたものが、それより高度な検査を入れても3時間ほどで終了することが可能になってきた。これは、コンピューターの導入、診断装置の改善などに起因する。したがって現在は、半日～1日ドックが主流である。受診者の意識は、当初、命ぜられるままにという他意的なものが多かったが、最近では健康意識の高まりを反映して自発的受診が多くなり、基本項目のみならずオプション検査を選択する受診者も増えている。

人間ドックを受診することにより各自の身体的健康度はある程度把握でき、改善しなければならないことも判明する。他意的な受診者は、改善しなければならない点を指摘されながらも、漫然と過ごすことが多いが、自発的な受診者は改善する努力が見られ、いわゆる行動変容が、少しずつ現れてきた。これはこの2～3年に見られる傾向である。これこそが人間ドックの意義であると考えられる。

東京都予防医学協会(以下「本会」)では、2006(平成18)年より人間ドックの定員を30人に増やした。

それに伴い施設を改装し、担当医も2人として診察・説明に時間を取れるように配慮した。また、少なくとも午後2時30分に終了できるようにした。

## 2006年度の人間ドック実施成績

### [1] 性別、年齢別受診者数

男性受診者4,057人、女性受診者1,737人、計5,794人であった。これは前年度に比較し、それぞれ、211人、222人、計433人の増加(増加率8.1%)であった(図1)。

人間ドックの受診料は必ずしも安価ではないが、この増加は、予防医学の重要性の理解を示唆する。受診者の年代別頻度は男女とも30～50歳代が多い。(表1、図1)

### [2] 性別・判定別頻度(表2)

男性：異常なし・差し支えなし合わせてわずか4.9%であり、有所見率87.6%であった。有所見には単に、食事摂取の工夫や運動などにより所見が改善するものが多く含まれている。実際に受診を要する率は25.9%、治療を要するものは0.1%であった。要精検率7.4%である。これには悪性疾患を疑うものもふくまれている。要精検率は5～6%くらいが望ましく、昨年の10.0%より減少したがやや高い傾向にあることは今後の課題である。

女性：異常なし、差し支えなし合わせて8.3%であり、男性よりやや多い。有所見の合計は77.3%でありこれは男性よりは少ない。しかし、要精検率が9.4%と高いのは、男性の検査に加えて、子宮がん検診、乳がん検診があるためである。

〔3〕性・年齢・項目別有所見率(図2)

【肥満・体脂肪率】

60歳代前半まで男性は女性より高値である。

【高血圧】

50歳代までは男女とも加齢につれ高血圧が増加する。

【糖尿】

女性より男性により多い。55歳以上はほぼ横ばいで推移している。

【心臓所見】

40歳以上の男性に有所見者が多いが、女性もその後同様に加齢とともに有所見が増加する。

【貧血】

閉経期までの女性において約1割が貧血傾向を呈する。その後男性が70歳以上で増加している。

【腎機能・尿所見】

総じて若干女性において有所見率が高いと思われた。

【肝機能】

60歳代まで男性は女性より肝機能有所見率が高い傾向にある。

【高脂血症】

若年層では男性により有所見率が高いが、50歳代以降においては女性が高くなる。これは閉経に起因

図1 年度・性・年齢別受診数の推移

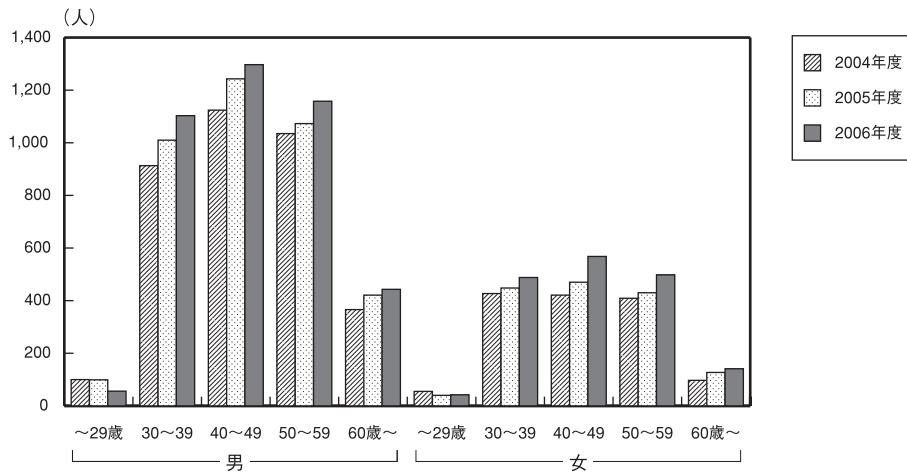


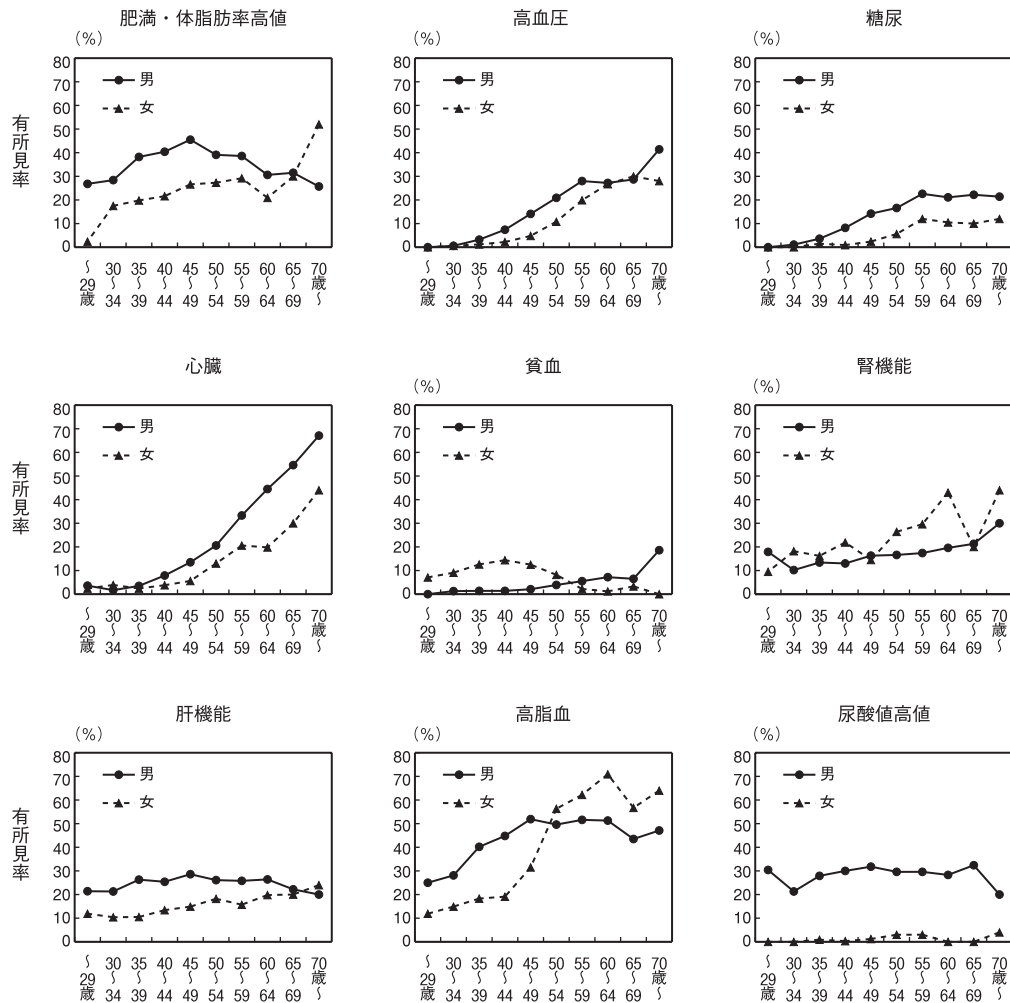
表1 性別・年齢別受診者数

		(2006年度)										
		年齢										
性別	年齢	~29歳	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳~	計
男	受診者数	56	469	634	721	576	573	585	265	108	70	4,057
	%	1.4	11.6	15.6	17.8	14.2	14.1	14.4	6.5	2.7	1.7	
女	受診者数	42	154	334	320	248	231	267	86	30	25	1,737
	%	2.4	8.9	19.2	18.4	14.3	13.3	15.4	5.0	1.7	1.4	
計	受診者数	98	623	968	1,041	824	804	852	351	138	95	5,794
	%	1.7	10.8	16.7	18.0	14.2	13.9	14.7	6.1	2.4	1.6	

表2 性別・判定別頻度

		(2006年度)										
		受診者数	異常なし	差し支えなし	有所見合計	有所見内訳					要精検	要再検
						要注意	要観察	要受診	要治療	要治療継続		
男	数	4,057	30	170	3,553	363	1,563	1,052	5	570	301	3
	%		0.7	4.2	87.6	8.9	38.5	25.9	0.1	14.0	7.4	0.1
女	数	1,737	28	116	1,342	203	634	357	3	145	245	6
	%		1.6	6.7	77.3	11.7	36.5	20.6	0.2	8.3	14.1	0.3
計	数	5,794	58	286	4,895	566	2,197	1,409	8	715	546	9
	%		1.0	4.9	84.5	9.8	37.9	24.3	0.1	12.3	9.4	0.2

図2 性・年齢・項目別有所見率



すると考える。

【尿酸】

各年代とも明らかに男性が高い。性差や食生活、飲酒の影響が推定される。

〔4〕人間ドックで発見・確定されたがん(表3)

2006年度人間ドックで発見された各部位のがんは以下のとおりであった。

平均年齢が低めであることや、他院で精密検査を受けている方が把握できないこと、本会に限らず経年受診されている方が多いことなどが考えられるが必ずしも発見者は多くはない。しかし早期発見されている割合が多いと思われる。また要受診や精査になった方が受診されているか、その結果がどうであったかを調べるシステムの構築を急いでいる。

胃がん	早期	2人	不明	2人
食道がん		1人		
肺がん	早期	3人		
子宮がん	早期	3人		
乳がん	早期	1人	進行	1人
大腸がん	不明	2人		

総括

受診後の安心感の提供と、必要かつ有効な行動変容への支援が人間ドックの最大意義である。本会では人間ドック受診時の結果説明、結果報告が届いた後の相談窓口としての予防医学相談室、さらには企業に出向いての保健指導などの活動を展開してきた。さらに2006年より予防医学相談室の担当医も増

表3-1 人間ドックで発見・確定されたがんの推移

年度	胃 部 X 線						胸 部 C T				腹 部 超 音 波																			
	受診者数	発 見 が ん					受診者数	発 見 が ん			受診者数	発 見 が ん																		
		性	発見時の年齢	部位	早期進行	初回再診		性	発見時の年齢	部 位		早期進行	初回再診	性	発見時の年齢	部 位														
1995	2,145	男	58	胃	早期	再診	2,052	男	55	大細胞がん	不明	初回	2,234																	
		男	53	残胃	早期	再診																								
		男	44	胃	早期	再診																								
		男	61	胃	早期	再診																								
		男	66	胃	進行	初回																								
	男	71	食道	早期	再診																									
1996	2,478	男	60	胃	早期	初回	2,090	女	45	細気管支上皮がん	早期	初回	2,300																	
		男	46	胃	早期	初回																								
		男	56	胃	早期	初回																								
1997	2,427	男	63	胃	進行	再診	2,295	男	48	腺がん	早期	初回	2,494																	
		男	60	胃	早期	再診																								
		男	54	胃	早期	再診																								
1998	2,437	男	54	胃	進行	初回	2,437	男	52	胸膜上皮がん	早期	初回	2,505	女	50	浸潤性膵管がん	肝転移													
		男	57	胃	早期	初回												男	57	腺がん	早期	初回	女	66	転移性肝がん					
		男	54	胃	早期	初回																								
		男	51	胃	早期	初回																								
		男	51	胃	早期	再診																								
		男	57	胃	早期	再診																								
	男	65	胃	不明	初回																									
1999	2,860	男	60	食道	不明	再診	2,904	男	54	腺がん	進行	初回	3,009	女	61	腎細胞がん														
						女											44	膀胱がんからの転移	進行	初回	男	61	腎細胞がん							
																								女	48	肺胞上皮がん	早期	再診		
2000	2,934	男	52	食道	不明	再診	3,002	男	56	細気管支肺胞上皮がん	早期	再診	3,094	女	53	腎細胞がん														
		男	59	胃	早期	再診											男	49	腎細胞がん											
		男	61	胃	早期	再診														男	58	腎細胞がん								
		男	66	食道	進行	再診																	男	61	腎細胞がん					
2001	3,454	女	68	胃	早期	初回	2,820					3,678	男	63	肝細胞がん															
2002	4,001	女	43	胃	進行	初回	2,928	男	63	腺がん	早期	初回	4,243	男	41	腎細胞がん														
2003	4,309	男	56	食道	進行	再診							4,571	男	41	腎細胞がん														
														男	53	胆のうがん														
2004	4,629	男	59	胃	早期	再診	3,928	男	51	腺がん	早期	再診	4,947	男	57	悪性リンパ腫														
		男	57	胃	早期	再診											男	55	扁平上皮がん	進行	再診	男	54	膵管がん						
		男	51	食道	進行	再診																			男	59	食道がんリンパ節転移			
						女	61	腎細胞がん																						
									男	59	腎細胞がん																			
2005	5,025	男	72	胃	早期							初回	4,283						5,360											
		男	75	胃	早期	再診																								
		男	59	胃	早期	再診																								
		男	59	食道	進行	再診																								
		男	50	食道	進行	初回																								
2006	5,393	男	63	胃	不明	初回	4,613	男	61	腺がん	早期	初回	5,792																	
		男	56	胃	早期	再診								男	50	腺がん	早期	初回												
		女	39	胃	不明	初回															男	51	乳頭腺がん	早期	初回					
		男	55	胃	早期	再診																								
		男	70	食道	不明	再診																								

員し、相談者の対応がスムーズにできるようにした。これらの努力によって、禁煙に成功した、節酒できた、腹囲径が縮小したなどの報告を聞くと着実にその成果が現れつつあると実感している。

また、2008年1月より3月まで、今後重大な健康問題

となると思われる慢性閉塞性肺疾患(COPD)に対して呼吸機能検査の結果に『肺年齢』の表示を試験的に使用することとした。これにより受診者の呼吸機能検査結果の理解を助けることが期待され、より適切な行動変容につながることを期待してのことである。

表3-2 人間ドックで発見・確定されたがんの推移

年度	子宮頸部細胞診				乳房（触・エコー）				乳房（触・マンモ）				便潜血検査（2回法）		
	受診者数	発見がん			受診者数	発見がん			受診者数	発見がん			受診者数	発見がん	
		発見時の年齢	部位	早期進行		発見時の年齢	部位	早期進行		発見時の年齢	部位	早期進行		性	発見時の年齢
1995	441	48 56	微小浸潤がん 微小浸潤がん	早期 早期	454	51 57	浸潤性乳管がん 硬がん	早期 早期	0				2,108	男 男	52 58
1996	428				454	40	充実腺管がん	早期	0				2,292		
1997	490	39 41	不明 上皮内がん	不明 早期	513	62	浸潤性乳管がん	早期	0				2,388		
1998	485	48	不明	不明	489				0				2,406		
1999	528				541	45 49	不明 不明	不明 不明	0				2,889	男 男	58 64
2000	519				557				5				2,982	男	59
2001	684	50 45 50	上皮内がん 上皮内がん 上皮内がん	早期 早期 早期	708	46	浸潤性乳管がん	早期	5				3,532		
2002	813				853	51	浸潤性乳管がん	早期	19				4,059	女	66
2003	976	37	微小浸潤がん	早期	1,004	53 37	硬がん 不明	早期 不明	81				4,340	女	54
2004	1,073	49	上皮内がん	早期	1,021	50	浸潤性乳管がん	早期	177				4,708	男	56
2005	1,154	48	微小浸潤がん	早期	1,054	49	硬がん	進行	273	49	浸潤性乳管がん	進行	5,235		
2006	1,284	38 58 35	上皮内がん 上皮内がん 上皮内がん	早期 早期 早期	887	43 43	非浸潤性乳管がん 浸潤性乳管がん	早期 進行	634				5,793	男 女	64 45